

○3番（鴨志田悟議員） 3番鴨志田悟でございます。

ただいま議長より発言のお許しをいただきましたので、通告順に従いまして、一般質問をさせていただきます。

さて、今年の冬も含め、近年の気候変動の影響は深刻な問題です。特に昨年7月は、観測史上最も暑くなり、国連のグテレス事務総長は、地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代になると警鐘を鳴らしました。山形県米沢市では、帰宅中の中学生が熱中症の疑いで倒れ、お亡くなりになるという痛ましい事案もありました。近年の暑さは、高齢者や乳幼児に限らず、誰にとっても命を脅かす気象災害であると認識しなければならないと考えます。

そこで、今回の一般質問では、深刻な気象変動から市民の命を守る、市民の安心安全な生活を守るという視点から、2点質問させていただきます。

初めに、昨年度までも一般質問でも取り上げられた熱中症対策について、私なりの視点で質問させていただきます。

政府は、極端な高温に対する備えを進めるために、平成19年から開催してきた熱中症関係省庁連絡会議を、令和3年、熱中症対策会議と改め、特に、熱中症警戒アラートを令和3年から全国で運用するようになりました。

しかし、熱中症による死亡数は増加傾向にあるなど、地球温暖化の進行を考慮すれば、さらなる対策が必要として法律を改正し、いわゆる改正「気候変動適応法」を今年、令和6年4月1日に施行するとしました。

そのような国の取組の中、本市の熱中症対策の現況について、1つ目に、熱中症対策の広報活動についてお伺いします。さらに、2つ目に、熱中症による過去5年間の緊急搬送と傷病程度についてお伺いします。

次に、指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターの指定について質問させていただきます。

改正「気候変動適応法」では、極端な高温の発生時は熱中症リスクが高まるため、冷房設備が整っている場所を地域であらかじめ確保することが熱中症リスクの低減につながるとして、市町村は、冷房設備を有する施設を指定暑熱避難施設として設置することができるとしました。さらに、最高暑さ指数3.5が予想され、熱中症特別警戒情報が発表されたときは、その期間中、指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターとして開放することが示されました。本市においても、第4次環境基本計画案の中で、常陸太田市地域気候変動適応計画がまとめられています。そこで、本市の指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターの設置についてのお考えをお伺いします。

続いて、項目2、小中学校体育館のエアコン設置について質問させていただきます。

小中学校のエアコンの設置については、普通教室の整備が進みましたが、一部教室ではまだ設置されず、未設置の特別教室では、教室との温度差で体調維持が難しかったり、その暑さで授業に集中できなかつたりするとの声も聞かれており、その対策は急務です。

一方、体育館は、昨今の夏は項目1で指摘したような猛暑によって、さらに、冬は地域にもよ

りますが、その寒さによって十分な活動ができないなど、授業はもちろん学校行事などの教育活動に支障を来すこともあると聞いております。

また、緊急避難場所や避難所に指定されている小中学校の体育館では、熱中症による2次災害が発生するリスクも考えられます。さらに、今回、能登半島地震にも見られる厳しい寒さへの対応、対策も十分ではありません。平常時の教育活動や非常時にも活用できるエアコンの設置を推進する必要があると考えます。

文科省においては、昨年4月、公立学校施設の空調（冷房）の設備の今後についてを示し、教育環境の改善及び避難所としての機能強化を図るため、体育館の空調設置について補助対象としていることと、空調設置と併せて断熱性確保のための工事の必要性を指摘しています。

県内では、公表されている文科省の調査、空調（冷房）設備設置状況（小中学校）令和4年9月1日現在では、県内でも多くの自治体が設置を始めていることが示されています。

また、近隣の高萩市は、令和6年度に中学校に2施設、令和7年度までに小中7校全てに設置する計画を、水戸市では令和6年度に基本計画作成に向けた業務委託を進め、令和10年度までに小中45体育館の工事を完了する方針を示しています。

そこで、本市の小中学校の体育館のエアコン設置について、まず、体育館を含めた小中学校施設のエアコン整備の現況についてお伺いします。

次に、先ほど指摘した猛暑や暑さなどの気候変動の状況下での小中学校の体育館における授業や学校行事等の学習環境の課題についてお伺いします。

続いて、避難所として体育館を利用する際の冷暖房設備についてお伺いします。

最後に、今後の体育館のエアコン設置についてお伺いします。

以上、2項目7件についてお伺いいたしまして、私の1回目の質問を終わりにします。

○藤田謙二議長 答弁を求めます。消防長。

〔後藤一人消防長 登壇〕

○後藤一人消防長 熱中症対策について、その現況についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、1点目の熱中症対策の広報活動についてのご質問にお答えをいたします。

本市では、熱中症警戒アラートの発表にかかわらず、気温30度程度が続くと予想される場合、防災行政無線による注意喚起を実施してまいりました。

主な内容としましては、気温が高くなることが予想されること、その対策として、エアコンの適切な利用や小まめな水分補給をすることなどでございます。

加えまして、消防本部、健康づくり推進課が連携し、広報ひたちおおた、じょうづるさんナビ、市ホームページなどの広報媒体を活用して、市民に対し広く熱中症予防の周知及び啓発を行ってございます。今後、熱中症が心配される天候時には、防災行政無線やじょうづるさんナビのプッシュ通知などを積極的に活用し、市民に適切に注意喚起してまいりたいと考えております。

続きまして、2点目の熱中症による過去5年間の救急搬送件数と傷病程度についてのご質問にお答えをいたします。

令和元年の熱中症または熱中症の疑いによる救急搬送件数は38件で、傷病程度は、医療機関

医師の初期診断で、入院診療を要さない軽症が21人、3週間未満の入院診療を要する中等症が16人、3週間以上の入院診療を要する重症が1人で行いました。

令和2年は、搬送件数が37件で、このうち軽症が21人、中等症が15人、重症が1人となっております。

令和3年は、搬送件数が24件で、このうち軽症が10人、中等症が14人、重症の傷病者はございませんでした。

令和4年は、搬送件数が43件で、このうち軽症が22人、中等症が20人、重症が1人となっております。

最後に、令和5年で行いますが、国が策定した調査報告要領に基づき、統計を取り始めた平成20年以来、搬送件数は67件と最も多く、傷病程度は、軽症が46人、中等症が19人、重症が2人で行います。

なお、過去5年間において、お亡くなりになった方はございません。

熱中症対策の現況で行いますが、令和5年に本市において最高気温が35度を越えた猛暑日は、消防本部の気象観測統計では27日で行いました。令和4年より11日増えている中、先ほど申し上げましたように、救急搬送は最多となりましたものの、軽症者数の割合が搬送件数全体の約7割を占めている状況等から考察しますと、1点目で行いました、早めの広報活動が功を奏している面もあると考えております。

○藤田謙二議長 市民生活部長。

〔小又理恵市民生活部長 登壇〕

○小又理恵市民生活部長 熱中症対策の指定暑熱避難施設の指定についてのご質問にお答えいたします。

指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターにつきましては、議員ご発言のとおり、改正「気候変動適応法」では、暑さをしのげる場を確保することで、極端な高温時における熱中症による重大な被害の発生を防止できるとされております。

現在、本市では、来年度を始期とする第4次常陸太田市環境基本計画を策定中ですが、その第6章、常陸太田市地域気候変動適応計画において、夏季の気温上昇は、熱中症患者発症数を増加させる可能性があるとし、熱中症の予防や高温時の注意点について、継続して周知を図っていくとともに、クーリングシェルターの指定、暑さを避けるために利用できる施設の確保を推進することとしております。

実は、昨日3月5日に、本件に関する国の説明会もあったところでございまして、今後、国が求める要件なども確認しながら、今年の夏までにクーリングシェルターの指定に向けまして、施設管理者や関係各課と調整を進めてまいります。

○藤田謙二議長 教育部長。

〔西野保教育部長 登壇〕

○西野保教育部長 小中学校施設のエアコン等設備についてのご質問のうち、教育委員会関係の3点のご質問にお答えをいたします。

1点目の、小中学校施設におけるエアコン等設備の現況についてでございます。

現在、市内15の小中学校へのエアコン設置率は、児童生徒が多くを時間を過ごします普通教室、特別支援教室及び通級教室を含みますが、こちらは100%、理科室や美術室などの特別教室が34.2%、体育館がゼロ%となっており、特別教室においては、順次設置をしているところでございます。

2点目の、体育館における授業や学校行事等の学習環境の課題についてでございますが、夏場におきましては、熱中症対策ガイドラインにより、屋内、屋外を問わず、暑さ指数が一定の値を超えますと運動は原則禁止となりますことから、暑さにより授業ができない場合には、教室で行う他の教科に振り分けるほか、冬場においては、けがをしないよう十分に準備体操を行うなど、学校現場において工夫をしながら授業をしているところでございます。

3点目として、今後の体育館のエアコン設置についてでございますが、本市の学校体育館につきましては、築年数が30年を超える建物が半数を超えており、長寿命化に向けた大規模改修が必要な時期となっております。

また、断熱性能につきましても施されていない体育館が約半数ありますが、施設の整備につきましては、今後の児童生徒数の推移なども考慮しつつ進めていく必要があると考えているところです。近隣市町村の状況を参考にしながら、断熱対策も含めた体育館の整備について検討をまいります。

○藤田謙二議長 総務部長。

〔岡部光洋総務部長 登壇〕

○岡部光洋総務部長 2の小中学校の体育館のエアコン設置についてのうち、避難所として体育館を使用する際の冷暖房設備のご質問にお答えいたします。

夏季に避難所を設置する場合、猛暑や体調不良者等への対応といたしまして、子どもたちの教育面に影響のないよう十分配慮しながら、エアコンが整備されております特別教室を使用するなどの対応を検討してまいります。

また、冬季における暖の確保といたしましては、学校に整備されておりますジェットヒーター等の大型暖房器具を使用するなどにより対応してまいります。

いずれにしましても、季節や状況に応じて、適切に避難所の運営に努めてまいります。

○藤田謙二議長 鴨志田議員。

〔3番 鴨志田悟議員 質問者席へ〕

○3番（鴨志田悟議員） ただいまご答弁大変ありがとうございました。

まず、初めに、熱中症対策の現況の中で、熱中症対策の広報活動では、防災無線による注意喚起の内容、さらには広報ひたちおた等の広報媒体を活用して、市民に対して広く予防の周知・啓発を行っていることを理解しました。

今後も熱中症が心配されるような天候時には、熱中症警戒情報、熱中症特別警戒情報との連携も含めた防災行政無線や、じょうづるさんナビのプッシュ通知などを積極的に活用するなど、多様な方法で市民に適切に啓発することをよろしく申し上げます。

2つ目に、熱中症による過去5年間の救急搬送数と傷病程度については、搬送件数の推移は増加傾向にあり、特に昨年度は猛暑を反映して67件と過去最高であったこと、傷病程度では重症者がほぼ毎年1名程度見られていること、その一方、幸い死亡者がいなかったことなどがつかめました。今後も搬送数の増加が予想されますので、広報活動も含め、適切な対応をよろしくお願ひします。

次に、指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターの指定については、直近の国の説明会の内容を踏まえて、今年の夏まで、クーリングシェルターの指定に向けまして、指定管理者や関係各課との調整を進めることが分かりました。今年の夏も、最高暑さ指数35が予想され、熱中症特別警戒情報も発表される可能性も配慮し、できるだけ速やかに、有効とされているクーリングシェルターの指定の調整を要望します。

続いて、項目2、小中学校体育館のエアコン設置については、本市の小中学校施設のエアコン整備状況については、普通教室100%の一方、特別教室は34.2%のこと、昨今の気候変動による児童生徒の体調管理の視点からも、早急な特別教室のエアコンの整備を要望します。

2点目の、体育館における授業や学校行事等の学習環境の課題では、学校現場では暑さや寒さに応じて工夫した授業を展開していることがつかめました。

そこで、体育館の夏場、冬場における授業を実施する上での具体的な配慮事項について、お伺ひします。

○藤田謙二議長 答弁を求めます。教育部長。

○西野保教育部長 ただいまのご質問にお答えをいたします。

まず、夏場における配慮事項といたしましては、1回目の答弁でもお答えしましたとおり、熱中症対策として暑さ指数、WBGTを午前・午後で測定をいたしまして、授業実施の可否について判断をし、暑さにより健康への影響が懸念される場合は、授業の入替えにより、空調設備の整った教室で保健体育の授業をするほか、暑さの状況に応じ、軽装や短時間での活動とする、さらに小まめな水分補給や休憩を取るなどの対策を講じているところでございます。

また、冬場におきましては、集会や式典の際にはストーブを使用しておりますが、体を動かす体育の授業におきましては、体が温まるまでウインドブレーカーを着用させて実施するなどの対策を講じまして、児童生徒の体調に配慮をしているところでございます。

○藤田謙二議長 鴨志田議員。

○3番（鴨志田悟議員） ご答弁、ありがとうございました。

今後とも、児童生徒の命に関わる暑さ指数の管理や職員間の連携、児童生徒の体調管理など、よろしくお願ひします。

次に、3点目の、学校体育館の避難所としての冷暖房設備では、校内の施設設備を活用して対応するとのことですが、学校関係者との事前の準備も含めて、緻密な連携の上、避難者の2次災害につながらないような準備対応をお願いしたいと思います。

最後に、今後の小中学校の体育館のエアコン設置については、今後の検討とのことですが、国の教育施設改修の補助金や防災関係の補助金などを調査研究し、気候変動に対応した児童生徒

の体調管理や避難所の視点を踏まえて、市内の体育館の整備工程表を作成し、早急な整備を重ねて要望します。

以上で、私の一般質問を終わりにします。ご答弁ありがとうございました。